

## 「中国報」(中国レポート 第十三号)

### おすすめ書籍 (番外編)

～新型コロナ禍の出張不可能状態のため番外編：おすすめの中国関連書籍情報～

### 古代中国の24時間 秦漢時代の衣食住から性愛まで 柿沼陽平著 中公新書

2000年前の古代の中国、始皇帝、項羽と劉邦、曹操ら英雄が活躍した時代における、1日24時間を再現し、それを朝起きてから寝るまでの出来事になぞらえて記述したのが本書で、当時の人々がどのような生活を営んでいたかを追体験する。副題は「秦漢時代の衣食住から性愛まで」となっている。

本書は新聞、雑誌の書評などでも数多く取り上げられているが、性愛の気になる部分についての書評は、少ないようだ。第11章に「歓楽街の悲喜こもごも」という章が設けられ、成人用品などの記述もあり、興味深くはあるが、本稿でも触れずに避けているのでご容赦願いたい。

ここでは、筆者が興味を持った内容の一つである、イケメンに関する部分を取り上げてみたい。また、他の書評に関しては、以下のURLを参考にされたい。

古代にもイケメンは存在したようで、春秋時代の子都、三国時代の何晏、西晋時代の潘岳がその名を残しているとのことである。彼らはマッチョではなく、色黒でもなく、透き通るような白い肌を持ち、瞳を輝かせ、美しいひげを持った男子であるというのが共通点のようだ。彼らが通りを歩くと女性の黄色い悲鳴が聞こえたらしい。一方、イケメンでない男性はいつの時代も哀れなようだ。当時のブサイクは、ツリ目、いかり肩、ふくろう場な、曲がった鼻、出っ歯、顎なしなどの条件で、意外や紅毛碧眼の彫りの深い顔はあまり肯定的に捉えられていなかったとのこと、このあたりは現代とかなり違うようだ。

ブサイクが美男の真似をして街を闊歩しようものなら、女性陣からつばを吐きかけられたらしい。この点は女性の例として「顰に倣う」という故事成語の由来が本文でも取り上げられているが、やはり分を知るということは古代でも必要だったようで、この点は現代にも通じよう。

巻末にリストアップされている参考文献の多さからも、書籍名とはちょっとミスマッチな学術的な色合いの濃い書籍でもある。中国の古代の文化・生活などを知ることのできる興味深い書籍である。その点が評価されて、多くの書評で取り上げられているのだと思う。

<ご参考>

<https://toyokeizai.net/articles/-/576480>  
<https://weekly-economist.mainichi.jp/articles/20211221/se1/00m/020/014000c>  
<https://book.asahi.com/article/14559572>  
<https://www.waseda.jp/flas/hss/news/2021/12/09/7447/>

(2022/04 森山博之)

---

本レポートに関する問い合わせ先：<https://arc.asahi-kasei.co.jp/contact/>